

## 資料1



写真・資1-13 東村立富弘美術館

## 資1-9 東村立富弘美術館建設施工者選定住民参加型施工計画提案競技

## (01) 施工競技の背景

富弘美術館は国際コンペで1,211件もの応募案から選ばれた大小合わせて33個のシリンダー四角に切り取ったユニークなデザインである。しかし、構造壁厚9mm、壁厚50mm、完璧なヒートブリッジと雨漏り対策、床吹き出し床吸い込み空調など、高い施工技術が要求されていた。従来の入札方式では施工技術を確認し契約することができず、コストと施工技術を総合的に評価する施工者選定方式が必要であった。

国が示す総合評価落札方式は技術をコストに数値変換して評価するが、数値変換方法が不明確である。このような状況の中で、建設検討委員会において議論した結果、PFMは技術と人を総合的に評価する「施工者選定住民参加型施工計画提案競技（以下、施工競技）」を開発した。

## (02) プロジェクトの特徴

当該競技は住民参加による施工者選定のための施工計画提案競技で、一般公募型・二段階審査方式である。一次審査においてコストを評価し、最終審査においてコストは議論せず、技術評価のみを行う一

種の総合評価方式である。

一次審査ではコスト評価として予備入札を実施した。最終審査ではコストは議論せず、技術と人を中心に評価し、最も相応しい施工者を公開審査で選定した。

積算に関し、主要部材は調査した実勢単価を、諸経費等については国土交通省の基準を採用した。また、積算内訳書および設計価格12億6349万円(税別)をインターネット上で事前公表した。ただし、算内訳書の公開は関係者以外の者が別な目的に利用することに配慮し、施工競技参加者および全村民に限定してパスワードを発行した。また、美術館内に設計図書の自由閲覧コーナーを設けた。

### (03) 競技プロセス

平成15年7月31日に応募要項公示、設計資料等配布開始、施工計画提案競技参加資格審査申請受付開始及び質疑応答の受付を開始した。8月13日に設計資料等配布終了、参加資格審査申請および質疑応答を締め切り、8月14日に予備入札書受付を開始した。8月21日に予備入札書の提出を締め切り、8月22日に予備入札を行った。同日、公開指名委員会において6社が施工提案競技参加者として指名された。9月1日に童謡ふるさと館において公開ヒアリングおよび最終審査が行われた。

### (04) 応募結果

一次審査では、示された設計図書に基づき「制限付一般競争予備入札」を行い、有効最低入札者から数えて7者を施工提案競技参加者として指名した。応募条件は一般公募で、①経営審査評価点(P点)1000点以上、②BCS賞受賞経験、③10年以内に同種同規模以上経験があることが応募条件である。

公募の結果、応募登録は7者に止まった。応募要項では、公開による施工計画提案競技指名委員会において、「予備入札の最低価格応札者から数えて7社を一次審査通過者とし、施工計画提案競技参加者として東村長が指名する。」とあり、全員が最終審査に指名されることから、コストによる競争原理が働かず高止まりが懸念された。

### (05) 一次審査(予備入札)

予備入札応札者は7社、内1辞退、計6社であった。予備入札結果は、佐田建設10億9000万円、鹿島建設11億9000分万円、大林組11億8770万円、井上工業11億2000万円、大成建設11億円、佐藤工業10億8000万円で、最高と最低の価格差は1億1千万円であった。

### (06)住民意見交換会

審査委員会を専門家で構成する場合、住民参加に断絶が生じる可能性があるため、審査員と住民が最終審査当日、審査に先立ち直接意見を交換し合う「住民意見交換会」を設けた。特に、当該施工競技は日本で初めての試みであり、住民の審査に対する理解度を高めるため、事務局が競技方法、考え方、並びに積算手法について説明を行った。

### (07)公開ヒアリング

同じ施工会社でも現場代理人の技術力によって品質や出来栄に大きな差異を生じる。発注の際、①現場代理人の技術力を確かめる、②各社エース級の現場代理人を引き出す、③すべてを公開することで談合等の不正行為を防止するという考えから、現場配置予定者より公開ヒアリングを行った。プレゼンテーションの表現方法は自由とし、持ち時間は各15分間とした。審査員からの質問は全員の発表が終了した後、舞台の位置を交代してまとめて行った。

### (08)最終審査

審査委員会の構成は、学識経験者3名、専門家2名、行政1名、設計者1名、計7名であった。最終審査は村民を含む100名近い傍聴者の前で行われた。評価基準は、①施工技術、②住民参加、③自由提案の3ポイントであった。プレゼンテーションの中で鹿島建設から設計VEによるコストダウンの提案があったが、本競技要項に違反するとして却下すると共に、発言が失格に当たるか否か協議した。その結果、当該提案を白紙に戻すことで失格としないことを全員で確認した。審査委員はそれぞれプレゼンテーションの感想を述べ、次に質疑が行われた。

最終段階で、各委員の評価を整理すると、①鹿島、大林組 4 票、②佐藤工業 2 票、③大成建設 1 票という結果であった。同列であった鹿島と大林組の決選投票の結果、鹿島 5 票、大林組 2 票で、予備入札で最も高い札を入れた鹿島建設が選ばれた。設計者の意図を最も良く理解し、的確な施工提案を行ったという評価であった。